

## 新居浜市鳥瞰図

令和4年4月10日（日）10:00～11:30

元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎

### 1. はじめに

副市長室に掛かっている新居浜市鳥瞰図の内容を読み解いてほしいとの依頼があった。現役時代に打ち合わせで入室した時に見た記憶がかすかにあるが、詳細には見ていなかった。改めて見ると綺麗に描がかれた絹絵である。色落ちもあまりしていない。長年住み慣れた旧市庁舎、子供のころに都会的な建物として圧倒された前新居浜駅舎、縦走した石鎚山から二ツ岳までの稜線が描かれている、その内容を読み解いてみる。

### 2. 鳥瞰図の内容

作画者 寺本左近(本名は寺本郷史)。香川県小豆市土庄町豊島生まれ。昭和8年に吉田初二郎の弟子となり、左近の雅号で鳥瞰図を描き始める。昭和12年に小豆島に戻り、戦後は日本画を学び、院展(日本美術院)作家として活躍する。昭和34年に埼玉県に移り住む。香川県内に観光用の鳥瞰図を残している。昭和24年の高松市街図屏風は高松市歴史資料館に館蔵されている。

作画年 新居浜市史(昭和55年3月31日発刊)には、昭和15年の新居浜市鳥瞰図と掲載されているが、市庁舎などからして間違いである。税務署、簡易裁判所が昭和24年に建設され、二代目の市庁舎が昭和27年に建設されている。四国林業株式会社が住友林業株式会社に社名変更するのが、昭和30年2月である。昭和28年10月竣工の市営野球場が描かれていない。なお、四国電力新居浜支店は昭和28年1月10日で廃止されている。

以上より昭和27年に描かれたものであると考える。

新居浜市の誕生が昭和12年11月3日である。

昭和17年 5周年

昭和22年 10周年

昭和27年 15周年

新居浜市市制施行15周年を記念して描かれたのではないかと考える。銅山無き後の地方後策が着々と進み躍進新居浜が実現していていることを表現している。中でも「大都市計画を樹立する」に対応して、昭和14年5月に決定した計画街路網(都市計画道路)が、グリッド・パターンで整備され、さらに推進する意思が未開通部分の完成として表現されている。昭和26年～昭和30年の市長は、白石捷一で、白石誉二郎の子である。父・誉二郎と鷲尾勘解治との工都新居浜構想と東

新地区による大新居浜市の実現の夢が実現していつていることを描いている。昭和 28 年川東四カ村編入合併、昭和 30 年上部四カ町村編入合併が続くので、描く範囲は高津、金子、新居浜の範囲である。

#### 地方後策

- 第 1. 築港埋め立てをすること。
- 第 2. 機械工業を起こすこと。
- 第 3. 化学工場の拡張を図ること。
- 第 4. 大都市計画を樹立すること。
- 第 5. 市民の心を培い、共存共栄の思想を昂揚すること。
- 第 6. 海面の埋め立てを行うこと。

作画様式 瀬戸内海から四国山地を背景として新居浜市を鳥瞰する視点で描かれている。

右上に雅号と落款がされている。絵は市庁舎を中心にして、新居浜港を取り囲む工場群と新居浜市街の様子が緻密に描かれている。緻密な描写範囲は、国領川以西で、予讃線以北のエリアであるが、あかがねの町新居浜を象徴するかのよう、左下の海中に四坂島を配置し、山中の真ん中に東平・端出場の別子銅山を描きこんでいる。国領川が南北の別子銅山の採鉱エリアと生産エリアを繋ぐかのように鮮明に描かれている。今でいうならば都市軸である。

初二郎式鳥瞰図の定型パターンを忠実に守り、主要箇所は巨大化やデフォルメで強調されている。川東エリアと予讃線以南は、遠近法的に遠のき、市外は左右に押しやられている。そんな中で左には、東京、富士山、京都、大阪、神戸、岡山、宇野の本州が遠望され、左には関門海峡を挟む門司と下関が遠望されている。

表示名	鉄道沿	東京、京都、大阪、神戸、岡山、宇野、高松、多度津、観音寺、川之江、イヨ三島、イヨ土居、多喜浜、新居浜、中萩、イヨ西條、壬生川、今治、松山、下関、門司
	川西西部	佛崎、四国林業株式会社、住友共同電力株式会社、住友機械工業株式会社、住友化学新居浜製造所、住友金属鉱山株式会社、住友建設株式会社、星越グラウンド、星越、別子鉱業星越選鉱場、住友病院、金子城址、金子山滝の宮公園、慈眼寺、養老院、端島、御代島、棧橋、築港、昭和橋、別子大丸百貨店、住友金属鉱山ニッケル工場
	川西東部	一宮神社、市庁舎、郵便局、公会堂、税務署、簡易裁判所、検察庁、消防署、体育館、警察署、商工会議所、銅山口屋跡、図書館、新居浜化学工業会社、大江橋、住友化学菊本製造所、住友共同電力発電所、四坂島、放送局、国領川、新高橋、城下橋、愛媛大学、四国電力新居浜支店
	川東	八幡神社、海水浴場
	上部	広瀬公園、土橋、瑞応寺、山根、吉岡城址

山中 黒石、端出場、清滝、別子銅山、おとしの溪谷  
山名 石鎚山、黒森山、瓶ヶ森山、笹ヶ峰、西赤石山、東赤石山  
※重複するが別子鉱山鉄道の駅  
端出場、黒石、山根、土橋、星越、築港、新居浜

## 表記

山の端 赤石山系と石鎚連峰の山の端は、東から二ツ岳、エビラ山、黒岳、日本石、権現山がせり上がり、手前に下兜山が描かれている。赤石山系の最高峰の東赤石山が高く描かれて西赤石山に続くが、八巻山、物住の頭、雲ヶ原と下兜山から上兜山を経て物住の頭に続く稜線は描かれていない。

西赤石山から東山への稜線は峠のように垂れて描かれている。東山、銅山越え、銅山峰、西山は別子銅山関連としては、デフォルメされている。西赤石山から西山への描き方が、東西で対照的なのはうなずけない。

笹ヶ峰は、父山と母山がペアになっている山なので、父山と母山で笹ヶ峰としている。笹ヶ峰から黒森山への稜線も端出場を描くために間延びしている。黒森山の位置は鹿森社宅の上よりも奥である。杳掛山、黒森山に該当する山頂が描かれているだけに特定されなかったのは残念である。描かれている黒森山は、堂ヶ平、傾山である。

瓶ヶ森の表示は、尖がっている山の形からして西黒森山で、右の神奈備形の形が瓶ヶ森である。

石鎚山も大砲、天狗岳、弥山の凹凸を誇張しているので、遠望しているところからして違和感が生じる。霊峰としてデフォルメしている。

西赤石山から東山へのたわみの稜線と、笹ヶ峰から黒森山への間延びした稜線は、東平から見て正確に把握できなかったのではないかと思われる。屏風のように連なる山域はあくまでも背景として重視していなかったのではないか。

道路 都市計画道路を表記しているためか、当時は未開通の道路が描かれている。国道については、新道はまだ描かれていない。笹ヶ峰への山道が描かれている。

新居浜駅－菊本は海岸まで開通

大江橋－神明線も高木まで開通

市役所前通りも前田社宅を貫通して病院前まで開通 昭和 33 年 3 月完成の平形橋が描かれている

新居浜駅－滝の宮も滝の宮公園まで開通

新居浜駅から惣開への斜め道路も大江－神明線の高木まで延伸

元塚－大丸前の海岸通りも東須賀と中須賀部も開通している。

海岸線 多喜浜塩田沖は埋め立てされていない。

清水町の漁業団地はできていない。  
菊本工場の外側のエリアへの埋め立て部はない。  
大江工場の本港への埋め立て部はない。  
棧橋南の船溜は浚渫されて完成している。  
住友化学新居浜製造所では、端島から埋め立てエリアは一部着手している。  
西の谷地先から西は自然海岸のままである。

#### 旧所在地の施設

放送局、四国電力新居浜支店、警察署、消防署、商工会議所、郵便局、図書館、  
養老院、別子建設株式会社、住友共同電力、四国林業株式会社

#### 無くなっている施設

海水浴場、愛媛大学、別子大丸百貨店、棧橋、星越グラウンド

#### 描かれている物

市庁舎は火災後の二代目の庁舎である。  
新居浜駅も前の駅舎である。  
武徳殿は体育館の名称になっている。  
予讃線は蒸気機関車が走っている。  
別子銅山では、葦谷橋、水力発電所、東端索動、端出場鉄橋、四通橋、鹿森社  
宅、遠登志橋、別子鉱山鉄道下部線が描かれている。新居浜－四坂島航路はさ  
らに延びて尾道までを示し、山陽線との連帯運輸を暗示している。

#### 表示名の無い施設等

日本繊維工業株式会社新居浜工場(中須賀町)  
大正 12 年に日本絹麻工業株式会社に改組し、昭和 8 年には日本絹麻紡績株  
式会社となったので、市民には「日本絹麻会社」で呼ばれた。  
愛星醤油株式会社(泉池町)  
大正 8 年に登道に操業する。  
泉寿亭、住友倶楽部、精銅工場、星越トンネル、物言嶽トンネル、車屋トン  
ネル、山根精錬所煙突、吉岡城址下の小野寅吉の銅像

表記の漢字 四坂島は「坂」で、大阪は「阪」の漢字である。  
イヨ西條も「條」の漢字である。

施設の年代 新居浜駅 昭和 16 年に改築し昭和 54 年 10 月まで。  
住友共同電力発電所 昭和 10 年竣工  
菊本、大江、新居浜の工場の配置と海岸線 昭和 20 年代  
昭和 37 年になると大江は沖に埋め立てる  
**市庁舎** 昭和 17 年 5 月に木造で建設された市庁舎は、昭和 25  
年 11 月 27 日の夜に焼失する。  
**2 代目の鉄筋 3 階建の庁舎は昭和 27 年 5 月に竣工**

農業会館	昭和 24 年 12 月竣工
簡易裁判所	昭和 24 年 7 月竣工
警察署	昭和 17 年 8 月に繁本町に建設、昭和 45 年 10 月に久保田町に建設移転。跡地は伊予銀行新居浜支店が建設された。
武徳殿	昭和 14 年 6 月建設
公会堂	昭和 14 年 6 月建設
税務署	昭和 23 年 12 月建設
住友病院	昭和 11 年 11 月建設
郵便局	昭和 14 年 3 月開局
四国電力新居浜支店	昭和 28 年 1 月 10 日に新居浜支店を廃止
商工会議所	昭和 30 年に新居浜小学校が新須賀町に移転した後に、泉池町に移転
別子建設株式会社	昭和 32 年 4 月 1 日に本社を東京に移転
四国林業株式会社	昭和 23 年 2 月設立 昭和 30 年 2 月、四国林業と東邦農林が合併して住友林業株式会社誕生
東端索道	昭和 10 年 5 月完成。昭和 43 年 3 月東平坑休鉱
図書館	昭和 5 年 4 月公立図書館に認定 昭和 37 年文化センターが完成し移転
ニッケル工場	昭和 25 年 10 月スクラップから電気ニッケル生産
滝の宮公園	昭和 26 年 4 月に工事着手
養老院	昭和 26 年 8 月に開設
<b>市営野球場</b>	<b>昭和 28 年 10 月竣工</b>
電報電話局	昭和 29 年 9 月に繁本町に移転

### 3. おわりに

鳥瞰図の中の表示名称は、パソコンの中では拡大すると読めたが、紙に打ち出し拡大コピーすると読めないの、丸ペンで書いて糊貼りすると全体が見えてきた。

建物は描いた時の物であるが、道路は計画道路であるので、最近になって開通した道路も表記されていて時間が二重構造になっていた。描かれている建物と名称使用期間と描かれていないその後の建物から作画年を絞り込むと、昭和 27 年が浮上してきた。

鷲尾勘解治と白石誉二郎・大石帛一が進めた「地方後策」が着実に建設されて行っているのがビジュアルに見える。21世紀になっても、その時のグランド・デザインに沿って工都新居浜がつくられている。半世紀にわたって人口12万人～13万人で推移してきたコンパクト・シティー新居浜があるので、今見ても違和感を覚えない。